

株主の皆様へ

第173期 中間報告書

2025年4月1日～2025年9月30日

Moving on to our New Stage 115 Plan



ともに歩む、その先の革新へ



イビデン株式会社

証券コード 4062



高品質で安定した製品供給と
世代を先取りした技術開発で、
産業の発展を支えます。

代表取締役社長

河島 浩二

Q 現在の市場環境と上期の営業状況をお聞かせください。

A AIサーバー向けの強い需要を受けて電子事業が
伸長し、上期は想定以上の業績となりました。

電子事業を取り巻く市場では、足元のAIサーバー向けの需要が引き続き強く、AIサーバー向けのICパッケージ基板は、ほぼフル生産が続いています。2025年に入り競合の参入もありますが、電子事業はスピードの速い世代交代に先んじた設備投資が求められます。先行投資を行ってきた当社が、当面は高いシェアを維持できると見ています。

一方、パソコン及び汎用サーバー向けの需要は、近年の落ち込みから徐々に回復しつつあり、堅調に推移する見通しですが、本格的に需要が戻るにはもう少し時間を要します。

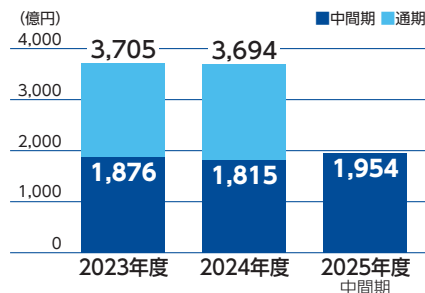
そうした中、新たな動きとしてハイパースケーラー（巨大データセンターを運営するクラウドサービスプロバイダー）によるASIC（特定用途向け半導体）用のICパッケージ基板の需要が高まっており、私たちも受注獲得に向けた動きを進めています。

セラミック事業を取り巻く自動車市場では、世界的なEVシフトの減速並びに、それに伴うパワー半導体需要の低迷

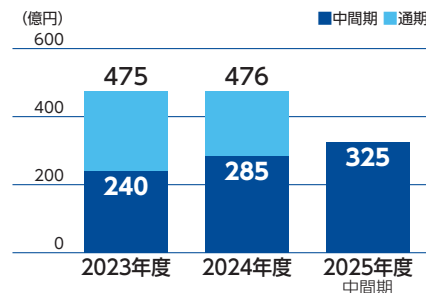
連結決算ハイライト

Financial Highlights

売上高



営業利益



が長期化しています。当社においても、今年度より量産出荷を開始したEVバッテリー用安全部材 (NEV) や、パワー半導体の製造に用いられる特殊炭素製品 (FGM) の需要に影響が出ています。

その反面、内燃機関向け製品市場は継続が見込まれるため、排気系部品であるディーゼル・パティキュレート・フィルタ (DPF) や、触媒担体保持・シール材 (AFP) は、新興国の大型車向けなどの需要を取り込んでいきます。なおAFP製品の一部は、米国へ直接輸出しており、米国関税政策の影響を受けますが、顧客との交渉や商流の見直しなどを進めることで、軽微な影響になっています。ただし各国の規制動向は、先行きが不透明な部分も多いため、楽観視せず注視していく考えです。

こうした市場環境及び需要動向を受け、上期の連結業績は、AIサーバー向けICパッケージ基板の伸長により電子事業が売上高・利益を伸ばし、セラミック事業の減速をカバーする形で、期初予想を上回る成果を上げました。

全体的に上期業績は、計画以上の成果と評価をしていますが、その中身は外部環境の変化が影響し、当初想定した姿と異なる結果であったと分析しています。激しく環境が変化する中で、市場見通しを確実に捉えることは難しいですが、環境変化にしっかり追従できる体制を整え、対応していく必要があると認識しています。

Q 今後の課題と通期業績の見通しをご説明願います。

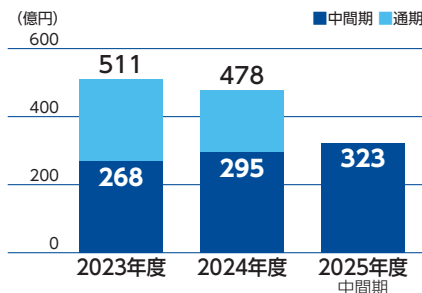
A 大野事業場の稼働によりAIサーバー向け基板の生産キャパシティを拡充。増産体制を整えます。

電子事業における喫緊の課題は、AIサーバー向けICパッケージ基板の需要拡大に対応した生産キャパシティの拡充です。その核として、岐阜県揖斐郡大野町に建設を進めてきた大野事業場が2025年10月に開所し、量産稼働を順次開始しています。これによりAIサーバー向けの生産能力は、今期末までに2024年度比で1.5倍程度 (製品面積ベース) に増える見込みです。今期は工場棟内の半分ほどのスペースを使用しますが、2027年度までに残りのスペースを活用できるように増産体制を整える予定です。

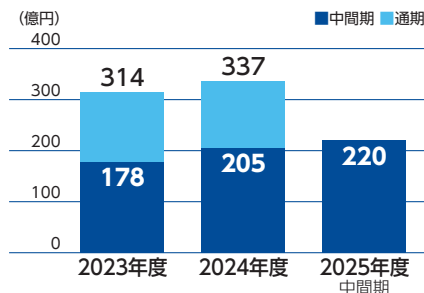
既存の大垣事業場 (岐阜県大垣市) 及び大垣中央事業場 (同) においても、活況なAIサーバー向けへ生産キャパシティのシフトを進めており、今後は3拠点で需要増加に対応していきます。

セラミック事業は、下期も引き続き厳しい市場環境が続くと見ていますが、将来の需要回復を見据え、各製品の再成長に向けた布石を打っていきます。特に今年度より事業部門へ移管し、量産体制を立ち上げたEVバッテリー用安全部材は、現在の国内メーカーを中心とした販売先から、グローバルな市場をターゲットに事業拡大し、その用途としても、EVバッ

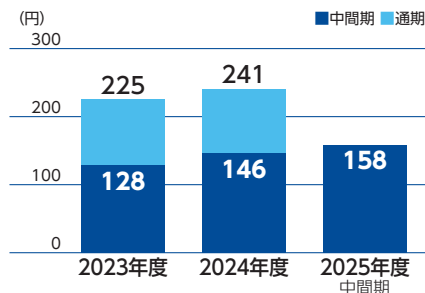
経常利益



親会社株主に帰属する中間 (当期) 純利益



1株当たり中間 (当期) 純利益



テリーからパワートレイン全体へ展開させていく考えです。また、内燃機関向け製品は、中国とインドの市場を更に開拓することを視野に入れ、新たな取り組みを進めていきます。

この下期は、AIサーバー向けを中心とする高付加価値製品の販売は堅調に推移しますが、大野事業場の立ち上げに伴う償却負担の増加、及びセラミック事業における市場の不透明感が続くことを見込んでいます。そのため、下期は上期と比べ営業利益が圧迫されますが、電子事業の高付加価値製品の需要増に対応し、今後も高い収益性を維持できる生産体制を築くことで、通期連結業績では、増収・増益を確保する見通しです。

Q 中期経営計画において重視していることは？

A **自立型人材の育成に向けて、社員一人ひとりの成長と活躍を促し、社内の意識変革を図ります。**

現在の5ヵ年中期経営計画(2023年度～2027年度)は、始動から2年半の折り返しを迎えました。活動の5本柱として「稼ぐ力」「伸ばす力」「継続する力」「変える力」「永続する力」を掲げ、それぞれの重点実施項目に基づく取り組みを進めています。

いずれも重要な定性的テーマですが、私は特に人的資本経営で企業文化を変革していく「変える力」を重視しています。これからのイビデンの成長を支えるのは、お客様から与えられた条件を忠実に守るだけでなく、自ら能動的・主体的に提案し、お客様の利益につながる行動をとることができる自立型人材です。私は経営者として、自立型人材を支えるための環境づくりに注力しながら、社員一人ひとりの成長と活躍を促すべく、人事施策も含めて社内の意識変革を図っていく方針です。

その一環として、当社の社会的存在意義を示す「パーパ

ス」の制定を検討しています。当社は何のために存在し、なぜその事業を行うのか、という根源的な意識を全社員と共有するための原点として、「パーパス」を改めて明確化し、「変える力」の醸成につなげたいと考えています。

Q 株主の皆様へのメッセージをお願いします。

A **岐阜から世界のインフラを支えるという使命感を胸に、企業としての価値・社会へ提供する価値を拡大していきます。**

株主の皆様への利益還元については、成長投資を優先しつつ、安定配当の継続を基本方針としてきましたが、今後は、配当性向20%を目安として、1株当たり40円をベースに累進配当*とする方針です。

2025年度の中間配当は、大野事業場の量産開始を記念した1株当たり10円の特別配当を実施し、同20円の普通配当と合わせて、同30円とさせていただきます。年間配当額は、今期末の配当20円と合わせて、同50円(前期比10円増配)となる見込みです。また、より多くの投資家に当社の経営を支えていただくため、2025年12月末を基準日として2026年1月1日付で1:2の株式分割を実施します。

私たちは東京のような大都市ではなく、岐阜県大垣市に本拠を置く会社ですが、全世界のお客様にとって必要不可欠な製品の供給を担っています。半導体をはじめとする多くの産業の発展を、高い技術力で支えることが当社の価値提供だと自負しています。今後も岐阜から世界のインフラを支える企業として使命感を胸に、企業価値・社会価値の拡大と持続的成長を実現してまいります。

株主の皆様におかれましては、引き続き長期のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

※原則として維持または増配とする配当政策のこと

世界最先端の ICパッケージ基板生産工場 大野事業場



AIサーバー向け製品の量産稼働を順次開始！

大野事業場は2021年9月に工場用地を取得し、2022年12月着工、2025年1月に開設しました。当社国内最大級の生産エリアを誇る世界最先端のICパッケージ基板生産工場として、AIサーバー向け製品を中心に10月より量産稼働を順次開始しました。

2025年10月10日(金)に開催した開所式では、社長の河島が当社を代表し、「建設にご尽力いただいた皆様、地域の皆様のご理解とご協力に心より感謝申し上げます。大野事業場は当社のAIサーバー向け製品の生産能力を大幅に拡大する拠点となります。お客様の多様なニーズに迅速かつ

柔軟に対応できる体制を構築し、AI技術の発展に貢献してまいります。岐阜県から世界のAIインフラを大きく支える製品をサポートできることを、心から誇りに思います。」と挨拶しました。

最先端のICパッケージ基板の需要は拡大しており、当社は大野事業場での量産と既存工場のフレキシブルな活用を合わせ、高付加価値製品の受注を最大限取り込んでいきます。そのうえで製品の安定供給を通じて、グローバルな半導体産業の発展に貢献していきます。

Topics



記念碑の除幕式を挙行

大野事業場の開所を記念し、建屋北東側に記念碑を建立いたしました。

この記念碑には、「夢を描き新たな未来へ(英文:Our Dreams Our Future)」という青木会長の想いが込められた言葉が刻まれています。プレート周りには電子をイメージした装飾が施され、大野事業場が当社の次の発展の起点となる新しい工場であることを象徴する、斬新なデザインとなっています。

News

ブランドメッセージを策定しました

当社のこれまでの歩み(歴史)と想い(価値観)を端的に示し、当社の認知度とステークホルダーの理解を深めていただくため、ブランドメッセージを作成しました。

110年を超える歴史の中で幾多の困難を乗り越えてきた当社が、全てのステークホルダーとともに新たな技術革新に挑み、成長し続ける意思を表現しています。

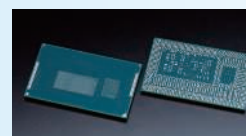
ともに歩む、その先の革新へ



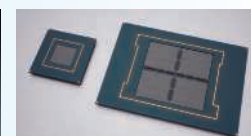
電子事業



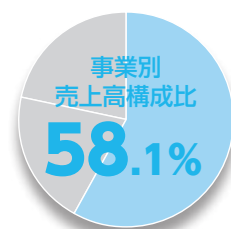
主な製品用途 ■ ICパッケージ基板 (PKG)
(パソコン・サーバー向け)



ICパッケージ基板 (PKG)
(モバイルPC向け)



ICパッケージ基板 (PKG)
(左：デスクトップPC向け
右：データセンター向け)

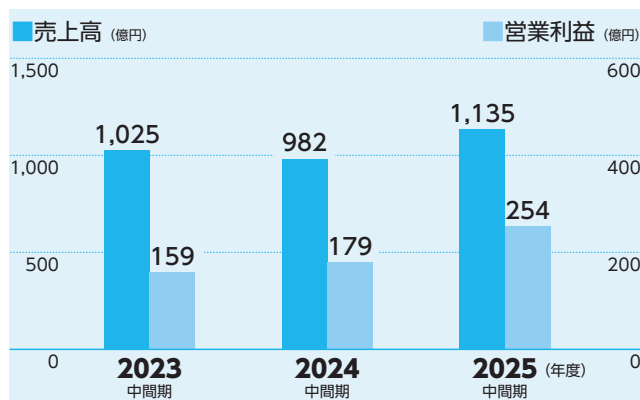


売上高

1,135億47百万円
(前年同期比15.6%増)

営業利益

254億29百万円
(前年同期比41.4%増)



電子事業におきましては、生成AI用サーバー向けの受注は引き続き好調に推移しました。また、力強さには欠けるものの、パソコン及び汎用サーバー向け高機能ICパッケージ基板の需要が緩やかな回復基調で推移したことに加えて、昨年度実施したフィリピン工場の製造原価低減活動の効果もあり、売上高・営業利益ともに前年同期に比べ増加しました。

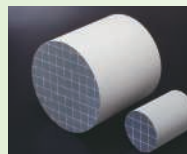
以上の結果、電子事業の売上高は1,135億47百万円となり、前年同期に比べ15.6%増加しました。同事業の営業利益は254億29百万円となり、前年同期に比べ41.4%増加しました。

セラミック事業



主な製品用途

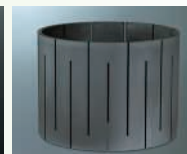
- ディーゼル・パティキュレート・フィルター (DPF)
- 触媒担体保持・シール材 (AFP)
- 特殊炭素製品 (FGM)
(半導体製造装置向け、新エネルギー関連向け)
- EVバッテリー用安全部材 (NEV)
- セラミックファイバー
- ファインセラミックス製品



ディーゼル・パティキュレート・フィルター (DPF)



触媒担体保持・シール材 (AFP)



特殊炭素製品 (FGM)
(半導体製造装置用部材)



売上高

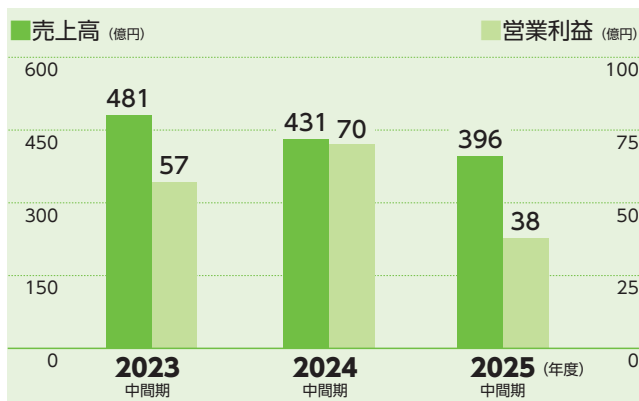
396億89百万円

(前年同期比8.0%減)

営業利益

38億39百万円

(前年同期比45.8%減)



自動車排気系部品であるディーゼル・パティキュレート・フィルター (DPF)は、受注に合わせた柔軟な生産体制を構築したものの、需要の減速に伴う販売数量の減少を受け、売上高・営業利益ともに前年同期に比べ減少しました。

触媒担体保持・シール材 (AFP)は、需要の減速に伴う販売数量の減少を受け、売上高・営業利益ともに前年同期に比べ減少しました。

特殊炭素製品 (FGM)は、EV市場の減速による影響を受けたパワー半導体向け需要の低迷に加え、市況変化による一部顧客の在庫調整などにより、売上高・営業利益ともに前年同期に比べ減少しました。

EVバッテリー用安全部材 (NEV)は、今年度より、技術開発本部からセラミック事業本部へ事業移管しております。量産開始により売上高は前年同期に比べ増加したものの、想定以上のEV市場の減速による固定費負担増加を主要因に、営業利益は前年同期に比べ減少しました。

以上の結果、セラミック事業の売上高は396億89百万円となり、前年同期に比べ8.0%減少しました。同事業の営業利益は38億39百万円となり、前年同期に比べ45.8%減少しました。

その他事業



小水力発電



ぎふワールド・ローズガーデン



屋上緑化（早稲田アリーナ）撮影：新建築社写真部



主な製品用途

- 各種設備の設計・施工
- 法面工事部門 ■ 造園工事部門
- メラミン化粧板 ■ 住宅設備機器
- 石油製品販売部門
- 情報サービス等の各種サービス業
- 食品加工
- 合成樹脂加工



プレミアム化粧板
イビボード H（アッシュ）



植物性小型代替エビ



ヘルスケアソリューション
健診、リハビリ、電子カルテ等製品製造販売



売上高

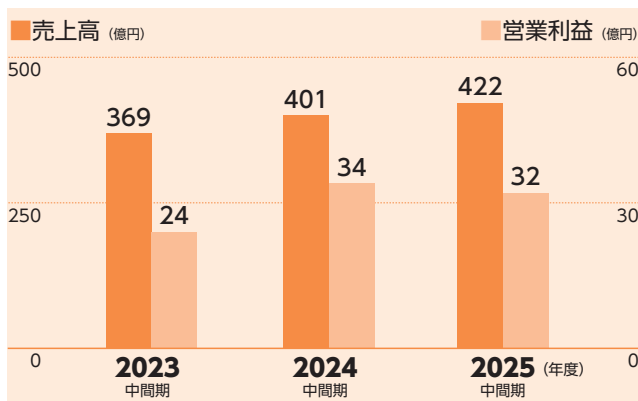
422億48百万円

（前年同期比5.1%増）

営業利益

32億50百万円

（前年同期比6.8%減）



建材部門におきましては、建築基準法改正の影響を受け、住宅着工が遅れ販売棟数が減少したことにより、売上高は前年同期に比べ減少しました。

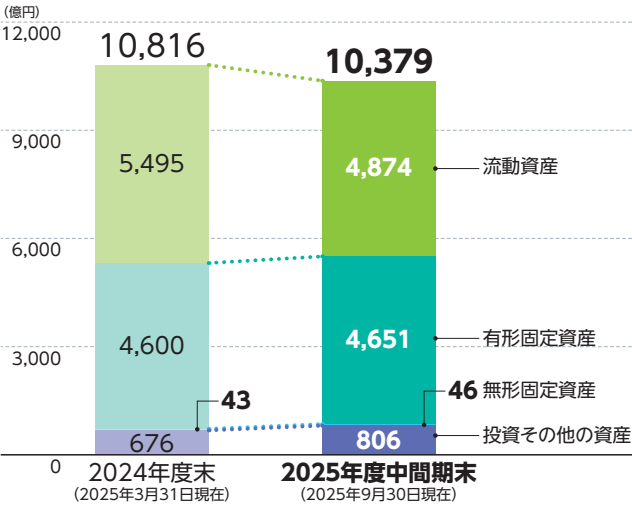
建設部門におきましては、発電設備・排水処理設備の建設工事の受注が堅調に推移したことに加え、大型工事が順調に進捗したことにより、売上高は前年同期に比べ増加しました。

その他部門におきましては、造園事業において大型物件の施工が順調に推移したことにより、売上高は前年同期に比べ増加したものの、同事業において資材価格が高騰したことや、ヘルスケア事業において特定健診制度改正に伴う受注が収束したことなどにより、営業利益は前年同期に比べ減少しました。

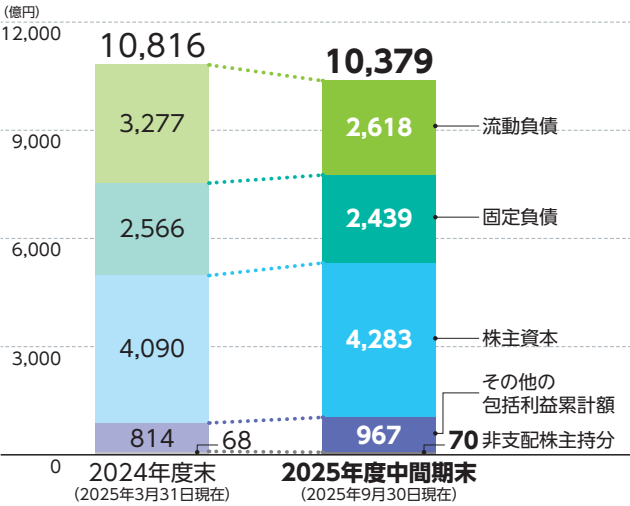
以上の結果、その他事業の売上高は422億48百万円となり、前年同期に比べ5.1%増加しました。同事業の営業利益は、32億50百万円となり、前年同期に比べ6.8%減少しました。

財務の状況

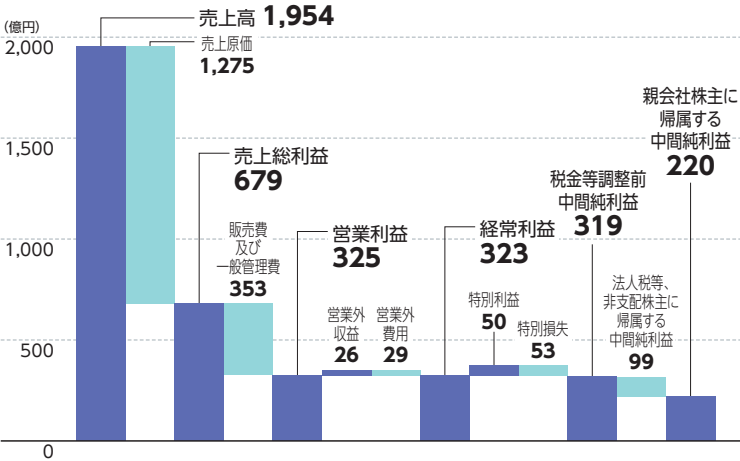
資産の部



負債・純資産の部

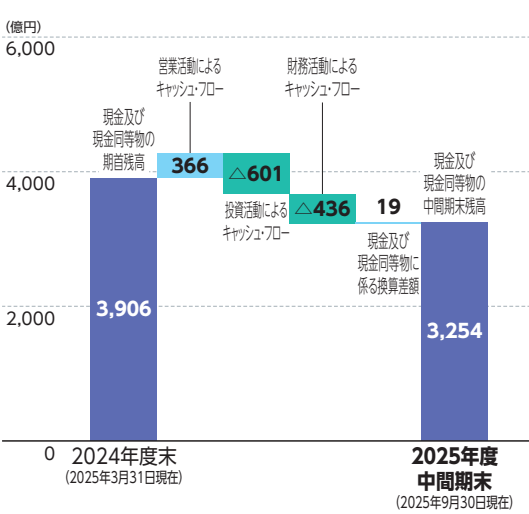


損益の状況 2025年4月1日～2025年9月30日



(注) 記載金額は、億円未満を切り捨てて表示しております。

キャッシュ・フローの状況



会社概要

創 立：1912年(大正元年)11月25日
資 本 金：64,152百万円
従業員数：4,048名(連結11,049名)

主な営業所

本 店：〒503-8604 岐阜県大垣市神田町2-1
☎(0584)81-3111(代)
東京支店：〒100-6329 東京都千代田区丸の内2-4-1
(丸の内ビルディング29階)
☎(03)3213-7322(代)

事業場

大垣事業場、大垣中央事業場、青柳事業場、河間事業場、
大野事業場、大垣北事業場、神戸事業場(以上岐阜県)
衣浦事業場(愛知県)

会計監査人

有限責任 あずさ監査法人

役 員

取 締 役			
代 表 取 締 役：青 木 武 志		取締役(常勤監査等委員)：野 田 幸 宏	
代 表 取 締 役：河 島 浩 二		取締役(常勤監査等委員)：松 林 浩 司	
取 締 役：鈴 木 歩		※取締役(監 査 等 委 員)：堀 江 正 樹	
取 締 役 加 藤 久 始		※取締役(監 査 等 委 員)：藪 ゆ き 子	
※取 締 役：小 池 利 和		※取締役(監 査 等 委 員)：後 藤 も ゆ る	
※取 締 役：浅 井 紀 子			
※取 締 役：丸 山 晴 也			

※ 社外取締役

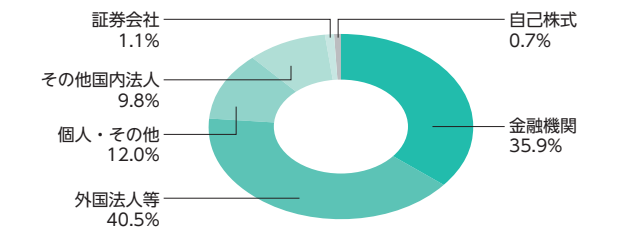
役付取締役			
会 長：青 木 武 志			
社 長：河 島 浩 二			

経営役員			
経 営 役 員：鈴 木 歩			
経 営 役 員：加 藤 久 始			
経 営 役 員：山 田 啓 二			
経 営 役 員：矢 島 直 彦			
経 営 役 員：國 枝 浩 司			
経 営 役 員：宮 崎 信 治			

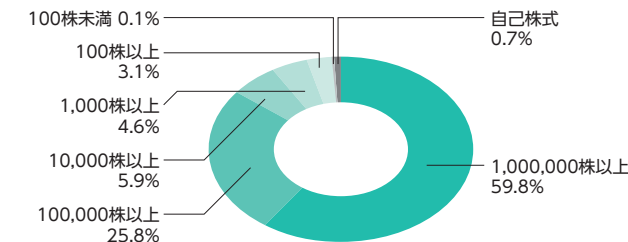
株式の状況

発行可能株式総数・・・230,000,000株
発行済株式総数・・・140,860,557株
株主数・・・29,699名

所有者別株式分布状況



株数別株式分布状況



株主メモ

事業年度	4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	毎年6月
基準日	定時株主総会 3月31日 期末配当 3月31日 中間配当 9月30日 その他必要があるときは、あらかじめ公告して定めます。
公告の方法	当社のホームページに掲載いたします。 ただし、やむを得ない事由により電子公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載します。 公告掲載URL https://www.ibiden.co.jp/
単元株式数	100株
株主名簿管理人	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社
同事務取扱場所	〒460-8685 名古屋市中区栄三丁目15番33号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部 ☎0120-782-031
同 取 次 窓 口	三井住友信託銀行株式会社 全国本支店
上 場 取 引 所	東京証券取引所 プライム市場 名古屋証券取引所 プレミア市場

大株主 (上位10名)

株主名	持株数(千株)
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	20,196
株式会社日本カストディ銀行(信託口)	12,195
株式会社豊田自動織機	6,221
GIC PRIVATE LIMITED - C	4,772
STATE STREET BANK AND TRUST COMPANY 505001	4,552
イビデン協力会社持株会	3,727
株式会社大垣共立銀行	3,150
株式会社十六銀行	3,100
大樹生命保険株式会社	2,539
JP JPMSE LUX RE UBS AG LONDON BRANCH EQ CO	2,463

(注) 千株未満切り捨て表示

- 未払配当金の支払いに関するお申出先
株主名簿管理人である三井住友信託銀行株式会社にお申出ください。
- 住所変更・単元未満株式の買取・買増等のお申出先
株主様の口座のある証券会社にお申出ください。なお、証券会社に口座がないため特別口座を開設された株主様は、特別口座管理機関である三井住友信託銀行株式会社にお申出ください。

統合報告書2025のデザイン/構成を刷新しました！

株主・投資家の皆様をはじめとするステークホルダーの皆様へ、当社グループについて理解を深めていただくことを目的として、毎年統合報告書を発行しております。

今年の統合報告書では、A4横型デザインに刷新し、PCやタブレットなどのウェブ画面で快適にご覧いただけるようにいたしました。また、構成も刷新し、中長期的な成長戦略、価値創造の取り組み、基本データについて、財務・非財務の両面から、より分かりやすくお伝えすることを心がけました。

右記のQRコードまたはURLから、ぜひ詳細をご覧ください。

※QRコードは(株)デンソーウェブの登録商標です。

見どころ

1 ブランド／At a glance

イビデンへの理解を深めていただけるよう、特徴や価値観を伝えるページを新たに設けました。

2 社長メッセージ／財務戦略／事業の成長戦略

新経営体制の戦略をこれらのページで詳しくお伝えしています。



WEBサイトはこちらから



<https://www.ibiden.co.jp/ir/library/annual/>



当社ホームページをぜひご覧ください。

<https://www.ibiden.co.jp/>



※本資料には、2025年10月現在の将来に関する前提・見通し・計画に基づく予測が含まれています。世界経済・競争状況・為替変動等にかかわるリスクや不確定要因により、実際の業績が記載の予測と異なる可能性があります。

UD
FONT

見やすいユニバーサル
デザインフォントを採用
しています。